近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2024年）　１／5

※速報値のため、変更等があり得ます。

①ガス事故報告件数　事業別（過去10年間）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
一般ガス導管事業関連	155	139	111	103	143	107	119	128	64	52
旧簡易ガス事業関連	5	3	1	4	3	2	2	1	2	1
合計	160	142	112	107	146	109	121	129	66	53

2024年に発生した近畿管内におけるガス関係報告規則第４条第１項に該当する 詳報対象事故の発生件数は、53件となった。
2022年から2023年の事故発生件数の減少の理由は、2023年3月31日付けでガス事故報告の運用が変更※になったことに伴うもの。
※「交通渋滞、公共交通機関の運行支障又は付近住民の往来困難等を招来したもの」を「高速道路・国道・都道府県道において、片側若しくは両側通行規制を来した場合又は電車・バス等公共交通機関について、運行停止若しくは大幅な遅延を来したもの」に変更。

②ガス事故報告件数　段階別（過去3年間）

	2022年	2023年	2024年
製造段階	0	1	0
供給段階	102（1）	43（2）	26
死傷事故件数	0	0	1
消費段階	27	22	27(1)
死傷事故件数	1	1	2
合計事故件数	129（1）	66（2）	53(1)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

・2024年は死傷事故が「供給段階」で1件、「消費段階」において2件発生。
・「供給段階」は、漏えいしたガスへの着火により1名が負傷したもの。
・「消費段階」は、2件ともにCO中毒（疑い含む）により負傷したもの。

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2024年）　２／５

※速報値のため、変更等があり得ます。

③供給段階における現象別件数（過去3年間）

	2022年	2023年	2024年
供給支障	9（1）	3（1）	1
着火・爆発・中毒等	2	0	6
避難・交通困難	90	40(1)	19
合計事故件数	101（1）	43（2）	26

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字
※現象については重複があるため、合計とは一致しない

・「避難・交通困難」を伴う事故が19件発生しており、現象として最も多く発生している。
・「供給支障」が１件発生しており、地盤改良工事時にボーリングマシンにて灯外内管が破損し、湧水が管内へ流入したもの。
・「着火・爆発・中毒等」の6件の内訳は、他工事が2件、自然劣化が1件、自然現象が1件、不適切使用が１件、不明が１件となっている。

④供給段階における要因別件数（過去3年間）

	2022年	2023年	2024年
他工事	39（1）	15	12
導管工事	2	0	0
自然劣化	35	21（2）	6
物理的外力	2	1	0
その他	23	6	8
合計事故件数	101（1）	43（2）	26

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

・「他工事」による事故が12件、「自然劣化」による事故が6件発生した。
・「その他」は車両飛込みや自然現象等。

（参考）管種別の自然劣化による事故（過去3年間）

	2022年	2023年	2024年	合計
ねずみ鋳鉄管	0	0	0	0
ｱｽﾌｧﾙﾄｼﾞｭｰﾄ巻き鋼管	11	4	1	16
亜鉛メッキ鋼管	6	2	2	10
ポリエチレン被覆鋼管	6	5	1	12
その他	3	2	2	7
不明	1	1	0	2
合計	27	14	6	47

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2024年）　３／５

※速報値のため、変更等があり得ます。

⑤現象別他工事による事故（過去3年間）

	2022年	2023年	2024年
供給支障	1(1)	0	1
中毒・酸欠	0	0	0
着火・爆発	1	0	2
避難・交通困難	38	15	9
他工事事故の合計	39(1)	15	12
事前照会あり	15(1)	8	6
事前照会なし	24	7	6

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字
※現象については重複があるため、合計とは一致しない

・他工事事故のうち、半数は事前照会が無かったものである。また、9件が敷地内において発生している。
・事前照会があったにもかかわらず事故に至ったものは6件あり、要因としては「事前照会時と異なった作業を連絡せずに実施した」ものや、「他工事業者内で現場作業員への連絡不備」等となっている。

⑥工事業者別の他工事による事故（過去3年間）

	2022年	2023年	2024年	合計
解体工事業者	12	8	5	25
建築工事業者	11	2	2	15
水道工事業者	5(1)	2	0	7(1)
下水道工事業者	1	0	2	3
道路工事業者	2	1	0	3
外構工事業者	1	0	0	1
改装工事業者	1	0	2	3
電気工事業者	1	0	0	1
基礎工事業者	0	0	0	0
設備工事業者	0	0	0	0
電柱工事業者	0	0	0	0
土質調査業者	0	2	1	3
その他	5	0	0	5
合計	39(1)	15	12	66(1)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字

・他工事事故は、解体工事業者、建築工事業者、水道・下水道事業者の順で多く発生している。

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2024年）　４／５

⑦消費段階における要因別件数（過去3年間）

※速報値のため、変更等があり得ます。

			2022年	2023年	2024年	合計
発生件数			27	22	27	76
消費者の理解不足や誤使用等に起因する事故			16	17	19	52
	維持管理不備		6	6	14	26
		経年劣化	3	2	10	15
		内部腐食	0	1	1	2
		汚れ等	3	3	0	6
		その他	0	0	2	2
	ガス栓誤開放		4	1	1	6
	接続不良・接続不完全		3	5	3	11
	不適切使用（点火操作ミス・使用ミス）		3	5	2	10
CO中毒			0	0	2	2
その他			11	7	6	24
	作業ミス		0	1	1	2
	養生シート覆い等、給排気閉塞		7	3	4	14
	リコール等		1	1	0	2
	その他		1	0	0	1
	不明（調査中を含む）		2	2	1	5

※複数の要因によるものがあるため、事故の発生件数と要因別合計は一致しない。

・消費機器事故は、年間２５件前後で推移している。
・ＣＯ中毒の２件は、いずれも飲食店における換気不良によるものである。
・事故原因は消費者に起因するものが多く、各消費機器（特にコンロ）ともに長期間使用に伴うや経年劣化、接続具の差し込み不足などがある。

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2024年）　５／５

※速報値のため、変更等があり得ます。

⑧消費段階の消費機器別件数（過去3年間）

	2022年	2023年	2024年	合計
風呂釜	2	0	1	3
湯沸器	9	5	8	22
ガス栓	4	2	1	7
炊飯器	0	0	1	1
コンロ	1	5（1）	3	9（1）
クッキング テーブル	1	2	5	8
ファン ヒーター	0	0	2	2
接続具	8（4）	9（4）	13	30（8）
その他	2	0	2	4
合計	27（4）	23（5）	36	82（9）

※（）は、産業用に用いられていたものであり、件数は内数。
※複数の要因によるものがあるため、事故の発生件数（P4⑦の表）と上記消費機器別件数の合計値は一致しない。例えば、クッキングテーブル、ファンヒーターについては事故原因の全てが接続具であるため、両方に計上している。
湯沸器についても一部接続具に原因がある。

・接続具の事故は、ガス機器接続部ソケット内部のコンセントパッキンの経年劣化等によりガス漏れが起こり、コンロ点火時に引火したものが多い。
・湯沸器の事故については、養生シート等による給排気閉塞が原因のものが多いが、需要家が自身で取付を行った際、不適切部品を使用するなどして事故が発生している。
・コンロの事故は、殆どが経年劣化や煮こぼれによるOリングの摩耗等により発生している。